

## 東日本区理事通信



国際会長主題 「価値観、エクステンション、リーダーシップ」  
 スローガン 「命の川を信じよう」  
 アジア太平洋地域会長主題 「変化をもたらそう」  
 スローガン 「奮い立たせよう」  
 東日本区理事主題 「変化をたのしもう！」  
 スローガン 「助け合い、分かち合い」

強調月間 ワイズ理解／ASF・ファミリーファスト 2020.11.1 発行 第5号



## 理事メッセージ

東日本区理事 板村 哲也（東京武蔵野多摩）

日中は過ごしやすく朝夕は冷え込む時節となりました。

これまでもお伝えしてきましたが、10月3日に千葉ウエストクラブの国際協会加盟認証状が伝達され、新会員の皆さまが世界的ボランティア団体の一員として正式に一步を踏み出されました。おめでとうございます。きわめて明るくうれしい出来事で、元気づけられます。東日本区の皆さま、また世界の仲間と共に慶び、これが弾みになり、さらに新たな展開が生じることを期待致します。

9月末から10月中旬にかけて5つの部大会が開催されました。難しい環境の中、それぞれが工夫を凝らし実施されました。中には対面とリモートのハイブリッドというチャレンジングな部大会もありました。仲間との久々の再会でワイズの良さを再確認されたのではないのでしょうか。今月号はこの部大会の様子を特集しました。

部大会の開催も大きな変化を余儀なくされましたが、実際にやってみると新たな発見があり、考えていたよりはるかに多くのことを学び、自分が変わったと感じられたのではないのでしょうか。結果の良し悪しに拘わらず、全てが学びとしてプラスになったのではないのでしょうか。学びのタネはどこにでもあり、学ぶことに事欠きません。学びに年齢制限は有りません。学び続けることにより知らず知らずに若さを保つのではないのでしょうか。長寿の時代、気負わずに楽しく学び続けたいものです。

今年度も早や3分の1が経過しました。厳しい環境の中、これまで通りにできないことの原因を探るのは簡単ですが、一つでも二つでも前向きなこと、新しいことを探し取り組んで行きましょう。

11月は「ワイズ理解」の強調月間です。この機会に改めてこれからの時代に合ったワイズの在り方などを考えてみましょう。

# 強調月間「ワイズ理解/ASF・ファミリーファスト」



## ワイズ理解 ～ワイズデー（11月10日）にちなんで～

東日本区理事 板村 哲也（東京武蔵野多摩）

1928年11月10日に、日本で最初のワイズメンズクラブ「大阪ワイズメンズ倶楽部」が国際協会に加盟を認証されました。日本区（当時）ではこれを記念して、1993年にこの日を「ワイズデー」と決めました。これにより11月を「ワイズ理解」の強調月間としています。日本にワイズメンズクラブが誕生して92年。この間にワイズを取り巻く環境、人の考えと行動様式は大きく変化しました。そしてワイズ（メンズクラブ）は？ 変化（する環境）に適応しないものは人も生物も組織も衰退、滅亡します。ワイズも例外ではありません。

ワイズデーを機に改めて問うてみましょう。ワイズとは何か。これからの時代に合ったワイズの在り方は？ Change! 2022 推進プロジェクトでアクションプランⅡが打ち出されています。これをご参考に各部、クラブで会員増強と発展・拡大にご尽力されることを期待しています。



## ASF・ファミリーファスト

地域奉仕・YMCA サービス事業主任 小原 史奈子（東京たんぽぽ）

### ASF 献金へご協力をお願い

皆様から区に献金頂いた ASF 献金は、CS 献金と合わせてその 10%をワイズメンズクラブ国際協会本部へ国際 ASF 献金として送金され、世界 YMCA 同盟のチェンジ・エージェント研修費支援等、世界レベルの YMCA スタッフやユースリーダーの研修に用いられています。さて、新型コロナウイルスの蔓延で、世界中多くの YMCA の事業、プログラムがストップ。財政難に直面し、閉鎖やスタッフの解雇等の危機にさらされている YMCA が多数あります。このような状況の中、世界 YMCA 同盟では「YMCA 連帯基金」を創設。困難な YMCA の支援を行っており、この基金への協力要請がワイズメンズクラブ国際協会へ求められています。今年度は国際 ASF 献金から 10,000 スイスフランを寄付する事になりました。日本国内の YMCA も困難な状況にあり、各クラブでお支え頂いていますが、グローバルな視点でも ASF 献金への更なるご協力をお願いいたします。ASF の献金目標（2/15 締切）は会員ひとりあたり 500 円以上ですが、お気持ちで上乗せを検討して頂ける事をお願いいたします。

ファミリーファスト（FF）は東日本区独自に取り組んでいる国内の献金プロジェクトです。タイム・オブ・ファスト（TOF）が例会での食事を抜き金額相当分を献金するのに対し、ファミリーファストは家庭内や、友人、知人に協力を求め食事代を献金し、東日本区内の HIV/AIDS に関わる活動に用いられます。主な活動は横浜 YMCA、横浜いのちの電話、カトリック横浜教区、ワイズメンズクラブ湘南・沖縄部の 4 団体が組織委員会を構成し主催する「エイズ文化フォーラム in 横浜」です。第 27 回目になる今年はコロナ禍 8 月 7 日～9 日の 3 日間に ZOOM で開催でした。17 のオンライン分科会に延べ 4076 人が日本全国、そして海外からの参加もあったと聞いています。FF 献金目標は会員ひとりあたり 500 円以上。エイズにおける教育や予防、治療支援、情報提供の機会をお支え下さい。

## 新しい国際プロジェクトのご紹介 「Week 4 Waste」（ゴミのための週）

ワイズメンズクラブ国際協会は、ジェイコブ・クリステンセン国際会長より、国際レベルの新しいプロジェクトとして、「Week 4 Waste」を採用したことが発表されました。

目的は、身の回りのゴミ拾いを世界中のワイズ全員がボランティアやパートナーと力を合わせ一斉に行い、地球をきれいにしよう。というプロジェクトです。

1 回目は 2020 年 9 月 19 日に行われ、次は 2021 年 4 月 18 日から 24 日をワイズクリーンアップ週間として計画しています。

その際にはぜひ、ワイズのロゴが入った物を身に付けて地域へのアピールをお願いいたします。

### Week 4 Waste ベストのご紹介

デンマークのウルリク・ラウリドセン プロジェクト委員長より、ワイズのロゴ入りベストを着てグループ活動する写真や動画と共に、「Week 4 Waste ベスト」の紹介を頂きました。視認性が高い安全ベストを送料込みで 1 枚 5 スイスフラン（約 580 円）で分けて頂けるとの事。各クラブでベストを注文したい場合は、東日本区事務所へ 11 月 16 日までにご連絡ください。まとめて発注致します。

### ★用語の解説

- ・ASF：Alexander Scholarship Fund の略で、国際協会の基金のひとつ。主として YMCA の職員や YMCA に連なるユースの研修費用に用いられている。
- ・CS：Community Service の略で地域社会・隣人奉仕活動。
- ・TOF：Time of Fast の略で「断食の時」とも言い、ある月の例会の食事を抜きにして、その分を献金する活動。
- ・FF：Family Fast の略で TOF を家庭内や、友人、知人に呼び掛けて行う献金。

## 「千葉ウエストクラブ誕生の軌跡」

千葉ウエストクラブ会長 高田一彦



足掛け3年の紆余曲折を得て、10月3日に千葉ウエストクラブのチャーターナイトに至ったことは、感慨無量の一言につきます。

ウエストクラブのチャーターへの経緯を振り返って見るとその必然性に驚かされます。

そもそもの千葉ウエストクラブ設立のきっかけは、現在の妻の実家が船橋にあり、孫関係で私が横浜から船橋へ移ったことにあります。その後6年間は

横浜ワイズや横浜 YMCA の会議等で、毎月3回は船橋から横浜へ通い続けましたが、遠距離はやはりということで、2017年に千葉クラブへ転籍しました。船橋に移って、3年くらいたって、近くの船橋教会の門を叩いた時のことですが、教会の門の上に掲げられた看板に YMCA のマークを見つけて、おお YMCA があると喜んだもので



でした。しかしながら、実際の活動はデポとしての小活動であり、かつては、船橋クラブも存在し、教会のメンバーを中心に活発であったことを知りました。なんで、YMCA やワイズメンズクラブがないのかと思うようになり、教会のなかでワイズ造りの声を上げるようになりました。そんな中で、かつて船橋クラブの会長であった、鈴木利夫さんの葬儀があった時のことです。

教会の礼拝堂の入り口に鈴木利夫さんの遺影が飾られていましたが、鈴木さんの遺影の胸に、ワイズのバッジが輝いていました。この写真は、娘さんが、父が一番気に入っている写真ですと言って、もって来られたものでした。これらが、ますますワイズ造りの気持ちに拍車をかけるようになり是非ともワイズメンズクラブを作って、船橋 YMCA の再興をはかろうという気になりました。

幸いなことに、教会には、かつて東京 YMCA のスタッフであられた吉崎さんもおられ、後押しをいただきました。そして関東東部のエクステンションに呼応して推進母体が出来、チャーターに至ったわけです。メンバーには、長尾さんの高校の後輩であり、私の職場の後輩でもあった岡田さんが加わり、教会の仲間と担当主事に私と長尾さんが千葉クラブから移籍しての8人での発足となりました。

幸いにこの3月に船橋教会に改築された信徒館が例会の場所として利用することが、教会の長老会で承認され、ワイズ活動の拠点が与えられたことは願ってもないことです。

これからは、船橋の地において、YMCA 活動を復興させることを第一に願いつつ、船橋の地域だけでなく世界に発信するワイズメンズクラブを作りたいと思います。



<認証状の伝達>



<入会式の様子>

# 部大会特集

## 東新部 2020 年部大会報告

東新部部長 加藤 義孝

日時 2020年10月10日 14:00～16:30

場所 東京YMCA 東陽町センターYMCA ホール

2020年度東新部運営はコロナ禍の中非常に不安を抱き問題を話し合う機会すら中々持てずに焦っておりましたが幸いコロナ対策としてオンライン会議など普及してきましたのでZoomによる会議を積極的に利用しハイブリッドな大会を企画しました。

昨年は台風のため延期しましたが今年度は是非延期しないよう会場とオンライン参加とに分けて行いました。会場参加者は31名オンライン参加37名合計68名です。

テーマ「アフターコロナ、新しいワイズライフを」

第一部 式典

第二部 研修 「多世代共生時代」について

第三部 懇親会 演奏会



## 関東東部部大会の報告

関東東部部長 柿沼 敬喜

開催日時：2020年10月3日（土）13:00～17:00

開催会場：浅草橋ヒューリックカンファレンス

大会内容：コロナ禍の中、防染対策として、参加人数は収容定員数の50%に絞り、かつ参加者全員に手洗い消毒およびマスク着用をお願いし開催しました。なお、懇親会も中止とし、弁当による昼食のみとしました。

講演は、プロジェクト「Change!2022」の経過報告を推進委員会の栗本委員長（熱海クラブ）にお願いしました。

## あずさ部部大会

あずさ部部長 御園生 好子

日時：10月17日(土) 13:00～

会場：高尾の森わくわくビレッジに於いて

ホストクラブ：東京サンライズクラブ

参加人数：70名

第1部 理事祝辞 国際表彰 東日本区大会アピール他

乾杯 食事 記念撮影

第2部

お楽しみタイム（ジャズ演奏会、紙芝居、マジックショー、駄菓子屋、昔遊び等）コロナに負けるなわくわく部大会としてコロナ対策に充分配慮して実行した





## 第23回湘南・沖縄部部大会報告

湘南・沖縄部部長 古田 和彦

10月3日（土）午後3時から5時過ぎまで、湘南とつかYMCA（横浜市戸塚区）において、第23回目の部大会を開催しました。前年度の23回（沖縄）がコロナの影響で中止となったせいです。

参加者は部内8クラブから43名、東日本区を代表して山田敏明直前理事、甲府21クラブから第24回区大会アピールのため6名の合計50名でした。

第1部は礼拝。横浜つづきのメンバーでもある、日本キリスト教団田園都築教会の相賀昇牧師による奨励で始めました。

第2部が部大会。開会点鐘、ワイズの信条の唱和に続き、出席者紹介、部長挨拶の後、来賓の横浜YMCA佐竹博総主事（横浜）、山田東日本区直前理事から挨拶を受けました。次いで、エクステンション委員会・各クラブのアピール、東日本区大会のアピールが行われました。写真撮影の後、第3部。

第3部は「環境問題を考える」と題し、学びを兼ねた記念講演です。講師はユースボランティアリーダーとして横須賀YMCAで活動する傍ら、世界・アジアのYMCAで、また、地元横須賀で環境問題に取り組む鈴木弥也子さんでした。閉会に当たり、礼拝献金44,890円と部大会残金（37,400円）は、コロナ禍にある留学生・専門学校生支援のために横浜YMCAに託しました。



## 富士山部部大会報告

富士山部部長 伊藤 一芳

9月26日、土曜日、あいにくの霧と、小雨が煙る富士山YMCAエコビレッジにて、富士山部各地より選ばれし精鋭36名、視界は20m、慣れない道路、YMCAの入り口は間口が狭く、一瞬のうちに通り過ぎてしまいます。午前11時、記念事業は「ブルーベリーの植樹」でした。樹齢4～5年生のしっかりしたブルーベリー10本、9本は富士山部各クラブ名にて、1本は本年度理事「板村哲也」

様のお名前です。植樹させて頂きました。この後は、論を待つまでも無く、おもてなしの、富士宮BBQ、地酒、歓談と2時までの楽しい時間が過ごせました、やはり、「リアル」は違います。”やれば何かが生まれます”



## ★プルタブ収集終了と車いす贈呈報告

小原史奈子（東京たんぽぽ）

プルタブ収集事業に長年ご協力頂き有難うございます。昨年度末、東日本区事務所の所長交代と共に、事務所でのプルタブ管理が難しく、東日本区でのプルタブ収集事業終了をアナウンスしました。今まで集めたプルタブが車いす2台分になり、贈呈先を募集した結果、東京グリーンクラブからグループホーム“あんしん苑”へ、長野クラブからYMCA 東山荘へ1台ずつ贈る事を、CS・Yサ事業委員会で選定し、10月初めに車いすが届けられました。東京グリーンクラブより贈呈式の報告と東山荘から「ご高齢の方が多くなりましたので重宝に使わせて頂きます。」とお礼のメールが届きましたのでお知らせします。



〈グループホーム“あんしん苑”



〈YMCA 東山荘〉

## ★常任役員会報告

東日本区書記 小山 久恵

10月25日（日）14時30分から17時40分、四谷の日本YMCA同盟においての対面と、Zoom参加のハイブリッドで常任役員会が開かれました。常任役員5名、オブザーバー8名の計13名のうち、四谷に集まったメンバーは8名、Zoomでの参加は5名でした。報告事項11件と、審議事項として議事録の承認のほか、第2回役員会の議案について話し合いがもたれました。

## ★東日本区公式 Zoom アカウント機能アップ

東日本区副書記 渡辺 大輔

上記常任役員会では、東日本区公式 Zoom アカウントの機能アップを行うことを決定しました。「ウェビナー」機能の追加で、これにより一般の方も招いて開催する講演会やセミナー類の開催が容易になるとともに、会議、イベントでの同時通訳が行えるようになります（通訳者は別途手配が必要です）。同時通訳機能は、IBCクラブとの会合や、クラブの例会や周年行事等にIBCクラブを招いたりする際にぜひご活用ください。なお、機能アップは、必要に応じて月毎に行いますので、ウェビナー機能の利用をご希望の方は、遅くとも2週間前までにお申し込みください。

## ★YMI ワールド翻訳グループメンバー募集

YMI ワールド翻訳グループ委員長 田中 博之  
東西日本区では国際協会の公式誌である「YMI ワールド」を、東西日本区の合同委員会「YMI ワールド翻訳グループ」（田中博之委員長（東京多摩みなみ））で翻訳し、毎号皆さまに日本語版を提供しています。この度、同グループではメンバーを拡充した上で、「YMI ワールド」以外の国際協会、アジア太平洋地域発信の文書類も対象とし、また、各種の国際イベント、会議での通訳にもその業務を広げることを考えています。英語の翻訳、通訳がお得意でお手伝いいただける方、または周囲にご推薦される方がいらっしゃれば、板村理事までご連絡ください。特に、次世代を担う、若手の方々の参加を期待しています。

## ★YMCA だより

日本YMCA同盟担当主事 光永 尚生（三島）

日本のYMCAは、中期計画2017-2020を進めてきました。ブランディングという考え方が、全国のYMCAに浸透し、今では、皆様のところでも新しいYMCAのイメージが定着しているのではないのでしょうか。私たちのYMCAでは、「ブランディング」というものを全国で学び、どう打ち出していくかなど、プロの力をお借りして、学んできました。

10月9日には、ZOOMによる方式で、全国YMCAから200名のスタッフが一堂に会して、改めて、「ブランディング表出研修」を行いました。単に、ロゴを変えたのではなく、中期計画を通して培われてきた、YMCAスピリットも継承し、外に向け伝えていくための研修です。11月には、YMCAのキャンプ100年を記念した、「キャンプ100記念シンポジウム」が、大阪YMCA土佐堀会館にて行われます。六甲山でのキャンプフェスは行われませんが、私たちの心の中の「キャンプ100年への想い」を共有する場となります。機会があれば、のぞいてみてくださいませうか。

また、12月30日から1月2日まで3泊4日の日程で、YMCA東山荘では、第55回年末年始家族パーティーが計画されています。御殿場、富士山、箱根山麓、アウトレットなど、3密ではない、雄大な自然の中で、今年も過ごせるように、スタッフ一同、感染予防対策はもちろんのこと、素敵な年越しの時間を、皆さんとともに過ごせるようにお待ちしております。

全国のYMCAは、困難の中ではありますが、皆さんとともに、これまでも、そしてこれからも「はなれていてもつながっています」寒くなつてまいります。ご自愛ください。

★入会者 (2020年10月1日～31日) (カッコ内は推薦者)

千葉ウエスト 内田久昭さん (高田 一彦さん)  
 岡田裕三さん (長尾 昌男さん)  
 小林和弘さん (千葉 YMCA/担当主事)  
 鈴木秀信さん (高田 一彦さん)  
 守安久美子さん (高田 一彦さん)  
 吉崎 勇さん (高田 一彦さん)

★募金・献金

ありがとうございました。

・JEF 献金

千葉ウエストクラブ 50,000 円  
 長尾昌男さん (千葉ウエスト) 10,000 円  
 板村哲也さん (東京武蔵野多摩) 10,000 円  
 佐藤茂美さん (東京) 10,000 円

★11月、12月の予定

11月 4日(水) 19:00～ Zoom  
 6日(金) 19:00～20:30 Zoom  
 7日(土) 19:00～ Zoom  
 14日(土) 11:00～14:30 岡島ローヤル会館  
 17日(火) 19:00～ Zoom  
 25日(水) 14:00～15:30 YMCA 同盟 (四谷)  
 12月 2日(水) 19:00～ Zoom  
 4日(金) 18:00～ YMCA 同盟 (+Zoom)  
 5日(土)  
 10日(木) 18:00～20:00 Zoom  
 11日(金) 18:30～ Zoom  
 12日(土)

第5回 Change! 2022 推進委員会  
 アジア太平洋地域 RD/RDE 会議  
 第2回役員会  
 甲府21クラブ30周年記念例会/IBC 締結(ハイブリッド)  
 第2回東日本区会計規則およびシステム検討小委員会  
 第6回区大会打ち合わせ  
 第3回拡大 EMC 事業委員会  
 第4回常任役員会  
 アジア太平洋地域四半期会議  
 パートナーシップ委員会  
 第3回 LT 委員会  
 横浜クラブ90周年

★YMI ワールド

YMI ワールド翻訳グループ委員長 田中 博之  
 ワイズメンズクラブ国際協会の公式誌「YMI ワールド」  
 2020-2021 年度第1号の日本語版が完成し、以下の東  
 日本区ウェブサイトに掲載いたしました。どうぞご覧  
 ください。

<https://www.ys-east.or.jp/yimi-world/>

今号には、以下の日本のワイズ関係の記事が掲載され  
 ています。ぜひご覧ください。

表紙：インド・ハイデラバードクラブと川越クラブの  
 交流の様子

P10-11：ハイデラバードクラブと彦根クラブの IBC の  
 歴史 (沼津クラブ、東京クラブも登場)

P14：東京ひがしクラブの「こども食堂」(「下町こども  
 ダイニング」) の紹介記事

～ クラブ会長、部長ほかの皆さま ～

ぜひ、日本のワイズの優れた、CS・Yサ活動、新型コ  
 ロナウイルス関連活動、Week 4 Waste 活動 (本紙参  
 照)、EMC 活動等の取り組みを寄稿してください。寄  
 稿されたい方は、田中までご相談ください。11月末ま  
 でに原稿 (英語で 150 語、日本語で 300 文字程度) と  
 精度の高い写真をお送りいただければ、次号に間に合  
 います。英訳は、当方で行います。

★第24回東日本区大会のご案内

ワイズメンズクラブ国際協会  
 第24回東日本区大会



ようこそ東日本区大会へ

Change for the future! (未来へつなげる変化を)

<スケジュール(予定)>

開催年月日	2021年6月12日(土) ～ 6月13日(日)	
開催場所	大会会場	甲府湯村温泉郷 常磐ホテル
	懇親会場	々
ホストクラブ	甲府21ワイズメンズクラブ	
6月11日(金)	理事杯ゴルフコンペ 役員会 前夜祭	
6月12日(土)	午前:	年次代議員会・メネットアワー 担当主事会・フレッシュワイズの会
	午後:	東日本区大会 (13時開会) 懇親会、フェローシップアワー
6月13日(日)	午前:	聖日礼拝 東日本区大会2日目 エクスカーション

● 皆さま、甲府湯村温泉郷でお待ちいたしております ●

出席者（敬称略）：大久保次期理事、衣笠次期書記、鈴木次期会計、大川次期会員増強事業主任、深尾次期 CS・Y サ事業主任、山田公平次期国際・交流事業主任、中村義春次期北海道部長、大澤次期関東東部長、松香次期東新部長、長谷川次期あずさ部長、小原進一次期富士山部長、板村理事、小山久恵書記、利根川恵子会計、渡辺副書記、吉田副会計、小林事務所長、辻監事(以下 LT 委員)千葉、山下、浅羽、小原史奈子、利根川太郎、山本、石田（全 25 名）

10 月 31 日（13:30~16:15）次期部長・事業主任研修会が Zoom を利用して開催されました。コロナ禍の中であってリモートでの開催でもあり、非常にコンパクトにまとめたものになりました。国際・アジア太平洋地域や YMCA はワークブックに綴じこまれた資料提供のみという簡素さ。板村哲也理事の現状報告も大久保知宏次期理事の事業計画、方針も猛ダッシュで駆け抜け、マニュアル・手引きも LT 委員長の「読んでおけ」との乱暴な提案で終わらせました。今回の研修は、Zoom によるワールドカフェという自己啓発プログラムをメインに据えた挑戦的な研修会となりました。

ワールドカフェは昨年の山田敏明直前理事の意向を受けて「教室での講義のような一方通行ではない新たな形」を具体化したもので LT 委員会でその手法に対して検討を重ねてきました。このプログラムの目的は参加者のひとり一人のやる気を高め今後の取り組みに新たな視点を持ちこもうとするものです。

少人数での話し合いからより論議を深め、活性化し、ひとり一人の気づきを大切にされたプログラムとなっており、その場での結論を求めてはいません。

しかし、参加したメンバーは、少人数の会話の中から今後の自分の活動にふさわしいキーワードを発見していききました。

「ワイズメンズクラブをより魅力的にするために」というテーマを軸に、現状報告から、リモートだろうが何だろうが「つながり」「絆」というキーワードがコロナ禍の中でより鮮明に浮き出てきているのを感じました。リモートでのワールドカフェはなかなか前例も少なく LT 委員会は準備の過程では模索の連続でしたが、Zoom の機能を最大限活かし、3 時間というリモートでは異例の長さの研修会も、参加者は時間を忘れて会話を楽しみました。

Zoom 機能の発揮、活用にはオペレーターを主体的に担っていただきました渡辺大輔東日本区副書記の力が大きかったことを感謝とともにご報告いたします。

このプログラムの中で同期役員相互の交流も深まり、画面越しでの交流であってもより濃密な関係が築けたのではないのでしょうか？

今回、ひとり一人の気づきが次期部長と事業主任の今後の活動にどう活かされていくのか？今から楽しみです。

